

## 第4回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

<b>日時</b>	令和3年(2021年)4月27日(火) 18時00分～19時30分		
<b>場所</b>	長野県小諸市庁舎 3F 第1・第2会議室		
<b>出席</b>	懇話会構成員21名		
<b>欠席</b>	懇話会構成員 4名	<b>傍聴者</b>	傍聴3名、報道1社
<b>事務局</b>	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭	
	県教育委員会	上原主幹指導主事、柳沢主任指導主事、石井主事、丸山担当係長、村澤担当係長	
<b>当日資料</b>	第4回懇話会次第、構成員名簿、第3回懇話会まとめ、小諸新校学校像のイメージ、小諸商業高校学校視察報告資料、大正大学 浦崎太郎先生 講演(第2回懇話会)内容【概要版】		

### 会議事項

- 1 報告 (1) 第3回懇話会まとめ (2) 第1回校地検討部会報告  
 2 会議 (1) 小諸商業高校の学校視察報告 (2) 意見交換(小諸新校の地域連携について)  
 3 連絡事項 次回予定(令和3年5月24日)

### 小諸商業高校の学校視察及び意見交換

#### 【小諸商業高校による学校視察報告】

<広島県立福山商業高校、広島商業高校『ビジネス探究プログラム』>

- テーマ**：ワーク①＝「生きるって何？」自由記述・・・(生徒の多くがほとんど書けない)  
 ワーク②＝『人生100年時代を確認しよう』(「Born」「Now」「End」)自分の人生の現在地を認識  
 ワーク③＝『ライフウェーブチャート』作成(良かったこと、嬉しかったこと、楽しかったこと)  
 (悪かったこと、悲しかったこと、苦しかったこと)

**発表(隣席同士→クラス全体)＝皆それぞれ違うことを認識**

- ワーク④＝『マインドマップ』作成(自分の周りにいる人、自分に影響を与えた人)  
 『ライフウェーブチャート』と『マインドマップ』を比較(自分の人生で印象に残った出来事には、影響を与えた人物がいることの気づき)

- ワーク⑤＝『マインドマップ』の言語化(自分の人生で印象に残った出来事、影響を与えた人を文章化)

**発表(隣席の仲間に説明→多くの人と回し読み)＝自分との違いを認識、仲間の理解、自分を理解してもらう**

- ワーク⑥＝『生きるために必要なことを列挙』→自分と同じものを挙げた生徒の名前を記述  
 ワーク⑦＝「生きるって何?Ⅱ」150字/15分目標・・・(ほとんどの生徒が目標クリア)

○**生徒の気づき**：生きていくために、人との関りの中で学びを深めることの大切さを認識→商業を学ぶことの意義へ発展

○**プログラムを実施する上での共通認識**：「失敗してもいい」・「人と違っていい」・「ミスしても注意されない」  
 →自分と違う考えを受け入れ、教師が「教えない」→「学ぶことの大切さ」「学びの楽しさ」気づきが生まれる→社会で役に立つ学習へ発展

#### 【意見交換】(視察報告を受けての感想及び、地域と連携した学びについて)

- 私は学校で、実際に発表された授業を体験した。問題を掘り下げて深く考えさせられる内容で、いろんな力が身につく実感があった。新しい学校では、一つの問題を深掘りしたり、自己分析したりできる授業が必要だと感じた。
- ブレインストーミング等、以前は企業研修で行われていた内容を、これからは高校生が授業で体験する時代になったと感じる。授業形態自体が変わらなくてはいけない時代になったと痛感する。
- 生徒自身が考え、答えのない課題に対し探究的な発想で取り組んでいくということが非常に大事だと思う。小諸高校では、ジョブ・インタビューで生徒自ら会社とアポをとり聞き取り学習を行い、教員がサポートする取り組みをしている。
- 小諸商業では、生徒たちが小学生にパソコンを教えたり、スマイル小商店街を通じて子どもたちに販売実習をしてもらったり、様々な商業的な学びを体験してもらう取り組みを長年にわたり継続している。
- 音楽科では、地元の保育園幼稚園に出向き演奏を通じた交流を行っている。生徒には、自分の幼い頃を振り返る授業を通して、子どもたちの気持ちを考えながら行うコンサートで地域との繋がりをもっている。
- 小諸新校には、地元の産業界や街の方々も積極的に関わりたいという希望をもっている。先ほどのビジネス探究プログラムが他の授業でも展開していることを聞くと、企業がお金を払ってコンサルを呼んで実施している内容と同じで、高校でそのような学びがあるというのは、将来に大変期待が持てる。
- 子どもたちがやりたいことができる環境づくりが大事。3科でコンサートをプロデュースし、どこで、誰を対象に、どんなブースで、お店も出して、自由に発想し行動できる環境が一つの高校になることで実践できる期待がもてる。
- 東信唯一の商業、県下唯一の音楽、それをつなぐ普通科、小諸市としては、新校の新たな学びの構築に協力をしたい。
- コンパクトシティ構想の中で、小中高校が連携して、新校を芯に高校生が回遊する新しい街づくりに繋がればいい。
- 地域の子どもたちをどう育てていくのかは、大人の責任として小中学生が魅力を感じる高校をつくらなくてはならない。
- 生徒が学びに生き活きと向かう姿勢をどう確立していくか、ということさらさらに深めていけたらいいと感じる。
- 新しくできる高校が、どういう教育を実践していくのか、その中身を見ることができた気がする。

